# Ⅱ　検出遺構の報告

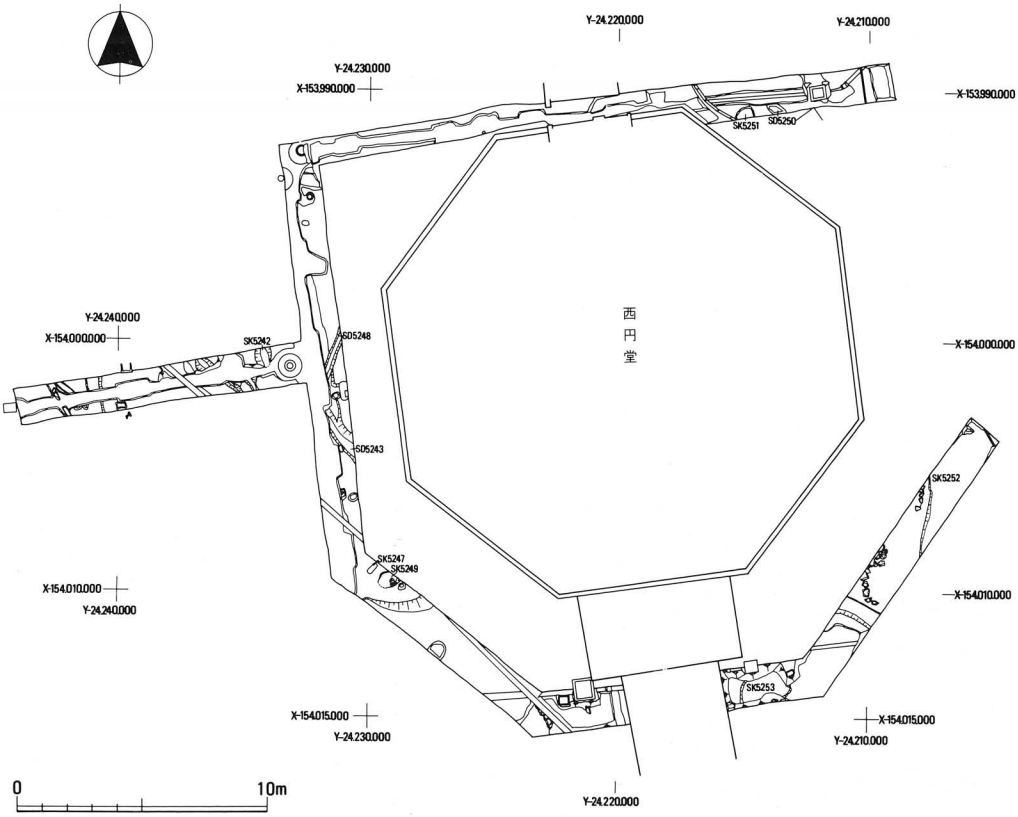
## 1．西円堂周辺地区

昭和58年９月に西円堂の周囲をめぐる幅1.5mのトレンチ（第278トレンチ）を設定した。トレンチのうち北・西側は旧管の位置に重なり，その中央部分が攪乱を受けている他，各所に水道管・電線管・排水管が埋設され遺構の保存状態は悪い。

西円堂は南東に延びる舌状の丘陵上に造営されているが，調査の結果，西円堂の北東部には飛鳥時代の瓦を含む厚い整地層があり，南東部には中世以降の厚い整地層のあることが判明した。検出した溝・土坑のうち主なものについて述べる。

SD5250　西円堂と薬師坊庫裡の間で検出した斜行溝で，幅約45cm，深さ約７cm，平安時代の軒平瓦が埋土から出土した。

SK5251　西円堂と薬師坊庫裡の間で検出した長方形の土坑で，南辺はトレンチ外にある。幅約70cm，深さ約７cm。




**第４図**　西円堂地区遺構図

SD5248　西円堂の西側で検出した斜溝で幅30cm，深さ約20cm。西側は旧管掘方で切られている。近世の丸・平瓦が出土。

SK5242　西円堂の西側で検出した長方形の土坑で北辺はトレンチ外にあり，南辺は旧管掘方で壊されている。幅約60cm，深さ約25cm。

SD5243　西円堂の西側で検出した斜行溝で幅約60cm，深さ20cm，西側は旧管掘方で壊されている。

SK5247　長さ約45cm，幅約20cm，深さ約30cmの長方形の土坑で，サヌカイト剝片が出土。

SK5249　径約70cmの土坑で，東側はトレンチの壁にかかる。凝灰岩片と奈良時代の丸・平瓦が出土した。

SK5253　西円堂の南側で検出した楕円形の土坑で，現地表下約150cmの深さで検出した。北・南端はいずれもトレンチの外にある。幅約2m，深さ約40cmである。法隆寺142型式の軒平瓦が出土した。

SK5252　西円堂の東側で検出した土坑で，現表土下約1.3mでその東肩を検出した。トレンチ外に広がるため平面規模はわからない。深さ約20cm，瓦器片が出土し，中世頃のものと考えられる。

**第5図**　第278西トレンチ(西から)

**第6図**　第278南北トレンチ(南から)

## 2．三経院及び西室周辺地区

三経院及び西室周辺地区では，導水管埋設予定地を7箇所のトレンチにわけて調査を行なった他，旧西室の位置を確認するため3箇所トレンチを設定した。トレンチの幅は1.5mであるが，検出遺構を確認するため一部拡幅を行なった。

**A　第260・261・264・279トレンチ**

西円堂と西室の間を通り，西円堂の南で南へ折れ曲がる。検出した瓦窯・土坑・溝などのうち主な遺構について述べたい。

SY5060　分焔牀をもつ半地下式の平窯で，焚口・燃焼室・分焔孔・焼成室が良好な状態で残る。焚口の幅は約30cmで両側に丸瓦を立てる。燃焼室は幅約80cm，長さ約90cmで奥壁に分焔孔が3箇所あけられている。焼成室は長さ約1.4m，幅約1mで，壁面は床面から約1.1mの高さまで残っている。分焔牀は2条で幅約20cm，高さ約15cmである。焼成室の東西両壁の分焔牀と同じ高さの位置には段が作られている。窯の周囲に幅約35cmの素掘溝(SD5045)がめぐる。焼成室埋土から軒平瓦143D型式が，焚口埋土から軒丸瓦6135型式，軒平瓦6730A型式が出土した。

SY5050　SY5060の西側で検出した。分焔牀をもつ半地下式の平窯で焼成室だけが残って

**第7図**　瓦窯SY5050・5060(東から)

いる。焼成室の幅は1.1mで,長さは約1.6mまで,側壁は床面から約1.1mの高さまで残っている。分焔牀は2条ある。幅約20cm，高さ約10cmで上面には平瓦片が用いられている。焼成室の側壁の分焔牀の高さと同じ位置には段がある。焼成室の埋土上層から近世の土師器小皿と瓦片等が多量に，下層からは軒平瓦143D型式,鴟尾片，多量の平瓦が出土した。

この2基の平窯は現在の西室に近接し，特にSY5050の焚口，燃焼室は西室背後の崖面の整形により破壊されたものと考えられる。この2基の瓦窯は遺物・窯型式からみて，鎌倉時代のものと考えられる。窯の検出により新管埋設のルートは北側に変更され，窯は現状のまま埋めもどした。

SK5051　SY5060の東側で検出した大型の土坑である。南北幅約3.2m，東西幅約3.4m，深さ約70cmの逆方錐形で，底部近くから鬼瓦，瓦器片，軒丸瓦が出土した。窯の近くにあり，窯の操業に関する粘土採取跡と考えられる。

SD5041　石組の溝で,幅約26cm,深さ約11cmで南東方向に流れる。近世のものである。

SD5042　SD5041の延長線上に検出した近世の瓦と石列からなる遺構であるが，SD5041とは一直線にはならない。近世のものである。

SD5043　トレンチの東端で検出した。石組の溝の西側石列と考えられる。トレンチを東側へ約50cm拡幅したが，東側石列は検出できなかった。近世のものと考えられる。

SX5044　丸瓦を用いた土管で南東方向にのびる。近世のものである。

SK5037・5039・5046・5058・5059　土坑SK5051の東側で検出した土坑で径20～80cm。うちSK5058の底からは根石状のものが検出された。いずれも中世のものであろう。

SD5038　溝状の遺構で南へ下がる。中世のものか。

SK5052・5053・5054・5063・5070・5071　地山面上で検出した土坑で径30～70cm。いずれも近世のものと考えられる。

SD5061　ほぼ東西方向にのびる溝で幅約55cm,深さ約50cm。SD5062の下層遺構である。近世の軒平瓦・軒丸瓦，塼，磁器が出土。

SD5062　土管を石列で保護した遺構で近世のものである。この土坑の下層で幅約70cmの南北方向の溝を検出した。時期不明。

SK5067　東側の肩を検出した。底はゆるやかに南西に下がる。時期不明。

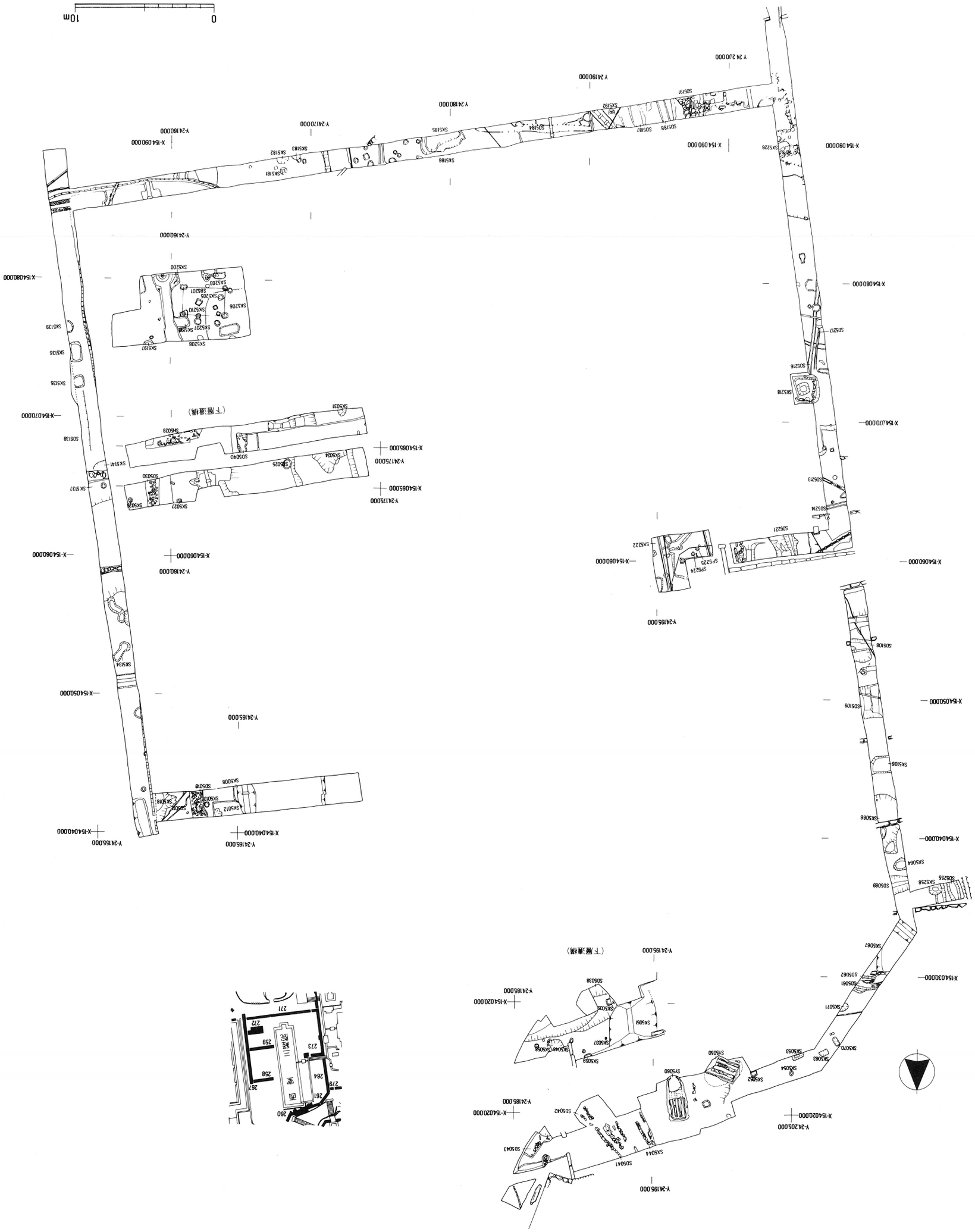
SD5255　幅約80cmの南北方向の素掘溝で，奈良時代の丸・平瓦等が出土した。掘込みの位置から近世頃のものと考えられる。

SK5256　径約90cmの土坑である。近代のものと考えられる。

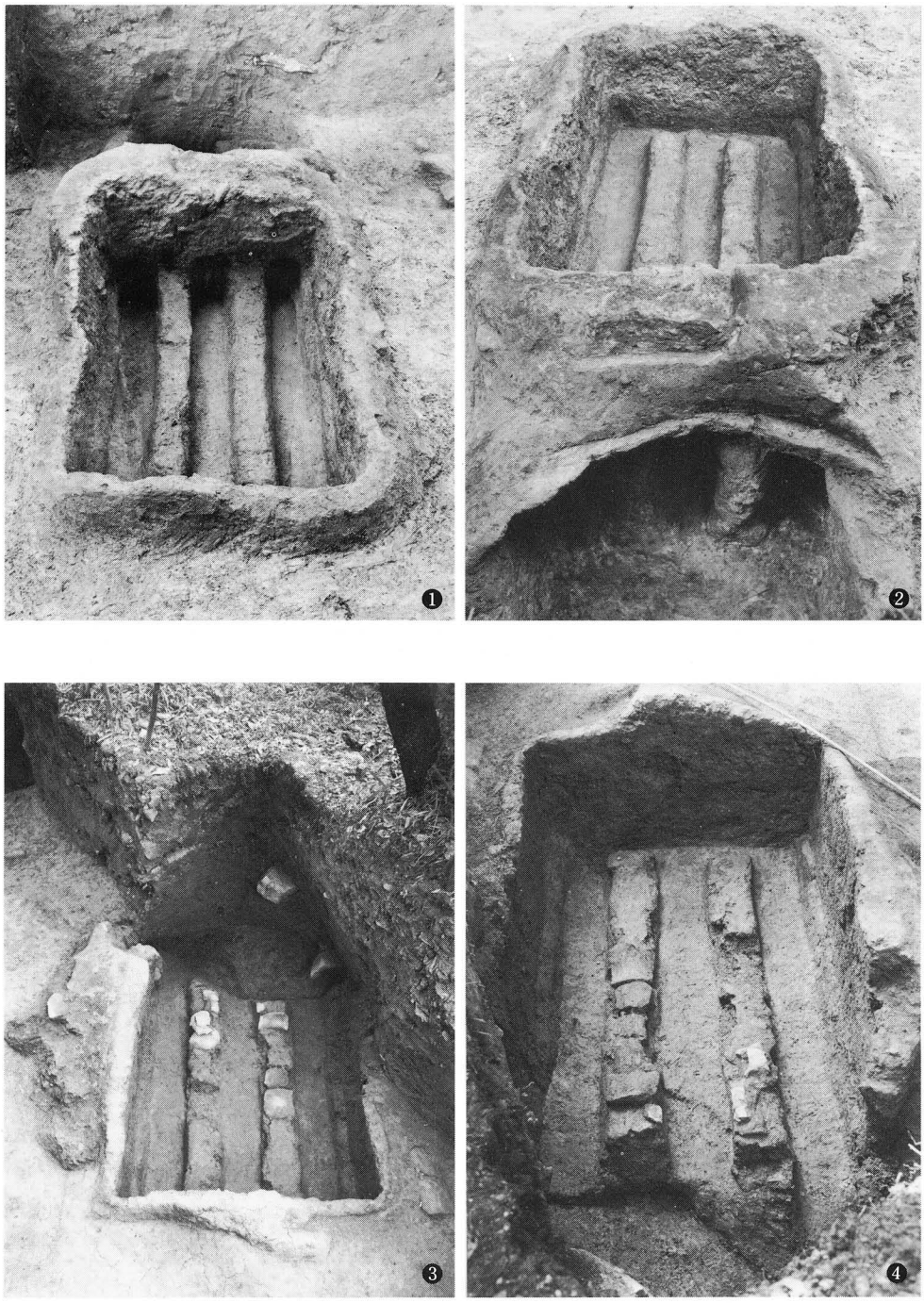
SD5069　東西方向の溝で幅約1.2m，深さ約40cm。中世のものか。

SK5064　径約90cmの土坑で深さ約30cm。近世のものである。

SK5066　南北幅約4mで東側はトレンチにかかる。現地表下約40cmの位置で確認した。深さ約140cm。奈良時代の土器・軒平瓦118型式,佐波理匙が出土(第8図×印)。




第8図　三経院及び西室周辺地区遺構図



**第9図**　瓦窯SY5050・5060　　1.SY5060全景　(北から)　2.同焼成室　(南から)
3.SY5050全景　(北から)　4.同焼成室　(南から)

SK5106　西壁はトレンチ外。南北幅約1.2m，深さ約30cmの土坑。近世であろう。

SD5109　東西方向の溝で，幅約2.2m，深さ約90 cm。近世のものである。

SD5108　東西方向の溝で，幅約70cm，深さ約7 cm。近世のものである。

**第10図**　第258トレンチ全景(東から)

**第12図**　第259トレンチ全景(東から)

**第11図**　SD5010(北から)

**第13図**　SD5030(北から)

## B　第258トレンチ

西院伽藍西面回廊と現西室間に設定した。後述する第259・272トレンチとともに旧西室を確認するためのトレンチである。主な遺構について述べる。

SD5010　幅約90cm，深さ約20cmの素掘りの南北溝で瓦の破片が堆積している。瓦には奈良時代と考えられるものが多いが軒丸瓦37Bが1点ある。この溝は昭和55年度の第３トレンチで検出された南北溝(SD01)の南延長線上にある。このSD01は幅約65cm,深さ約30cm，両側を河原石で護岸したもので，その北側で検出できた東西溝(SD02)とともに，承暦年間に北端一房を残して焼失したとされる西室の雨落溝と考えられた。

SK5018　トレンチの東端で検出した土坑で，電線管により切られている。深さ約20cm。飛鳥時代の瓦片及び軒平瓦116Aが出土。

SD5011　幅約35cmの斜行する溝で，深さ約10cm。時期不明。

SK5013　径約40cm，深さ約８cmの円形の土坑である。

SK5012　方形の土坑で北側はトレンチにかかり，西側は旧管により切られている。深さ約12cmである。

SK5008　南側はトレンチにかかり，西側は旧管で切られている。形状不明の土坑である。深さ約12cmである。

その他　トレンチ南壁沿いの位置で，長さ8.5m，幅約1mにわたりたち割り調査を行なった。地山は西から東へゆるやかに下がり，この場所は谷状の地形を整地したものであることが明らかとなった。整地層は大きくわけると上層から瓦器・灰釉陶器・須恵器片を含む灰褐色砂質土層，７世紀代の軒丸瓦(4A,37C）の出土した灰色砂混り粘土層，８世紀代の瓦片や須恵器片を含む灰色炭混り粘土層にわけられ，地山は現地表下約3.3mの深さにある。

## C　第259トレンチ

三経院と西院西面回廊の間に設定した東西トレンチ。主な検出遺構は溝・土坑である。

三和土(漆喰土）旧管掘方から東側では三和土と考えられる灰色土の面を検出した。その範囲は，西端は旧管で切られ，東端は旧管掘方の肩から約2m東の位置までである。この三和土の範囲の東端部では凝灰岩の小片が出土した。

SK5027　トレンチの北壁にかかる。１辺約35cm,深さ約４cmの長方形の土坑。三和土の面から掘りこまれている。

SD5030　幅約75cm,深さ約13cm。瓦片が堆積する溝状の遺構であるが肩は明確でない。溝内には灰色砂質土が堆積する。位置的には第258トレンチのSD5010の南の延長線上にある。

SK5026　トレンチの東端で検出した形の土坑で径約30cm，深さ約７cm。

SK5025　トレンチの中央部で検出した形の土坑で径約60cm，深さ約15cm。

SK5024　トレンチの西端部で検出した土坑で南壁にかかる。幅約3m，深さ約30cm。地山まで掘込まれた大型の土坑で，埋土に焼土・炭・壁土・瓦片などを含んでいる。

SD5040　トレンチの中央部で検出した南北溝で，幅約50cm，深さ約20cm，溝の西岸には石が１個残存する。溝内からは西院伽藍創建時の軒丸瓦，丸・平瓦が出土している。この溝は先述のSD5030よりは約50cm深い位置にある。

SK5031　トレンチのたち割で検出した土坑で，南壁にかかる。幅約60cm，深さ約20cm，須恵器片が出土した。

SH5028　先述の三和土（漆喰土）の範囲にあたる場所の下層から検出した小石・瓦細片を敷いた遺構である。

その他　この地域の地山は西から東へ深く下がり，トレンチの西端から約6mの所では表土約3.2mの所に地山があり，その間を,整地土で埋められていることが判明した。表土下約1.1mにある黒布色粘質土からは，飛鳥時代から奈良時代までの軒瓦が出土した。第258トレンチと同様，谷状の地形を整地して現在の地盤が造られたことが明らかとなった。

**D　第272トレンチ**

第259トレンチの南に設定した。旧西室雨落溝の東南の隅の検出を目的としたが検出することはできなかった。検出した遺構は掘立柱建物，土坑などである。

SB5201　東西３m,南北2mの１×１間の掘立柱建物で掘方の底には礎石を置く。この建物は中～近世のものと考えられる。

SK5205　柱掘方の底に石が置かれているが，SB5201の柱通りとは合わない。

SA5203　トレンチの西南部で検出した柱列で，東側の掘方内には柱根が残る。近代のものである。

SK5206　トレンチの北西隅部に検出した落ちこみで，深さ約30cm，瓦が出土した。

SK5197　トレンチの北壁にかかって検出した土坑で，深さ約10cm，近世のものであろう。

SK5207・5208・5210　径40～50cmの土坑で，トレンチの中央部で検出した。中世のものと考えられる。

**第14図**
第272トレンチ西半部(南から)

### E　第267トレンチ

西院伽藍西面回廊の西側に南北に設定したトレンチである。昭和55年度の第20トレンチの南延長上にある。トレンチ北端には旧管の掘方があり，トレンチの西壁に沿って電線を保護する陶製のトラフである。トレンチを東西に横断するコンクリート・石組の３条の溝はいずれも近現代のものである。

SK5135・5136・5139　トレンチの南側・東壁にかかって検出した土坑である。近代の瓦を埋めた瓦溜である。

SK5134　地山面上で検出した瓢形の土坑で，深さ約20cm，土坑底部に堆積した砂利層から軒丸瓦・軒平瓦各１点，瓦器片が出土した。中世のものと考えられる。

SK5137　径約40cm，深さ20cmの土坑である。埋土から瓦片が出土した。中世のものと考えられる。

SK5141　近代の石垣の下に入る土坑で，深さ約20cm，埋土は灰色炭混り粘土である。中世のものと考えられる。

SD5138　溝状の遺構で西側を検出した。深さ約15cm。灰色粘土で埋り，奈良時代の丸・平瓦片が入る。

その他　トレンチ内における地山の状況は北と南では大きく様子が異る。X-154,063mあたりから北側では，おおむね表土下40～60cm程で地山となるが，それより南側では地山が大きく下がり，谷あるいは池状の様相を呈する。この谷状の地形はさらに幅1.5mのトレンチ内でも東から西への下がりが認められ，この部分が東岸にあたることがわかる。第258・259トレンチで検出した谷状の地形の西岸に対応するものであろう。現地表下約60cmまでは中世以降の土層であり，それ以下約1.7mまで西院伽藍造営時と考えられる整地層が認められる，さらに無遺物のシルト層がつづく。整地層の中から西院伽藍創建時の軒丸瓦２点，軒平瓦３点などが出土した。

**第15図**
第262トレンチ全景(南から)

## F　第273トレンチ

宝珠院の築地の東側に設定したトレンチで，北端からは東へトレンチがのび，南端からはトレンチが東へのび第271トレンチにつづく。検出した遺構は中世から近世のもので，溝・土坑・埋甕等がある。

SD5221　南北方向の溝状の遺構で，幅約1.6m，深さ約40cm。西院創建時の軒瓦，中・近世軒瓦，近世陶磁器が入いる。近世のものと考えられる。

SK5222　浅い土坑状の窪みで広く西から東へ下がる。この土坑からは土師器小皿が多量に出土した他，顎面に忍冬文をへら描きした軒平瓦，近世軒丸瓦等が出土した。近世の遺構と考えられる。

SD5214　幅約20cmの東西方向の溝状遺構で，土管埋設のための掘方と考えられる。近世のものと考えられる。

SK5218　1辺約2mの方形の掘方の内側にコ字状に石を並べ，その中に径約90cm，断面半円状の土坑を設ける。軒平瓦・瓦器碗が出土した。中世のものと考えられる。

SD5216・5217　トレンチを斜行する溝状の遺構で，SD5216は幅約25cm，深さ　cm，SD5217は幅20cm，深さ約5cm，近世のものか。

SX5226　トレンチの南半で検出した階段状の遺構である。北側には石列が一列あり，その北側には瓦が敷かれている。南側では鍵形に並ぶ石列がある。うち南北に並ぶ石列が階段の西端でその西側は溝状になり，素掘りの溝は南へ延びている。東西に並ぶ石列の南約1mの所に東西に並ぶ石列の抜取跡がある。中世の土器を含む整地土の上に作られている。近世のものか。

その他　地山は全体にゆるやかに北から南へ下がるが，X-154.085あたりから急に現地表下約1.7mまで下がる溝状の遺構がある。この下がりは瓦器を含む整地土で埋められ，整地土の上に先述の階段状遺構SX5226が作られている。

**第16図**　第273トレンチ全景(北から)

**第17図**　SX5226(南から)

## G　第271トレンチ

三経院の南側に東西に設定したトレンチである。土坑など検出した。

SK5181　径約50cm，深さ約30cmの土坑で，瓦器椀片が出土。中世のものと考えられる。

SK5182　トレンチの南壁にかかる土坑で，幅約80cm，深さ32cm，瓦器椀片が出土。中世のものと考えられる。

SK5183　トレンチの南壁にかかる土坑で，幅約60cm，深さ約20cm，瓦器椀片が出土。中世のものと考えられる。

SK5186　トレンチの南壁にかかる大形の土坑で，SK5185が重なる。幅約3m，深さ約12cm，瓦器碗片が出土した。中世のものと考えられる。

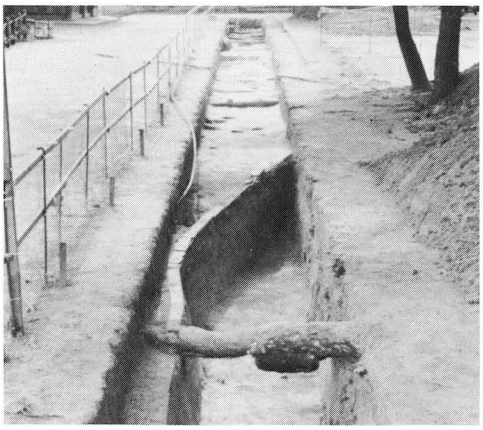
SK5185　トレンチの南壁にかかる大形の土坑で，幅約2.5m，深さ約30cm，瓦器椀片が出土した。中世のものと考えられる。

SD5184　トレンチを斜断する溝状の遺構で，幅約50cm，深さ約15cm，瓦器片の入った暗灰色土を切って作られている。

SK5192　礫の入った土坑で，径約60cm，深さ約10cm。

SD5188　南北溝で，幅約60cm，深さ約15cm。瓦器椀が入いる。中世のものと考えられる。

その他　このトレンチ内における地形および整地についてふれておきたい。トレンチの中央部はおおむね表土下約50cmで地山となるのに対し，トレンチの両端部は深く地山が下がる。東側の地山の下がりはトレンチの端から約11mの位置から始まり，東へ急峻に下がり，トレンチの東端部では表土下2m以上の深さになるようである。この地山の下がりは西院伽藍創建時の整地層で埋められ，この整地層中から軒瓦・青銅滓・須恵器・土師器・ふいご羽口等の遺物が出土した。西側の地山の下がりはトレンチ西端から6mのあたりからはじまり，ゆるやかに西側に下がり，トレンチの西端あたりでは表土下約1.5mに地山がある。この下がりは主に瓦器を含む土層で整地されている。



**第18図**　第271トレンチ東半部(東から)

**第19図**　第271トレンチ西半部(東から)

## 3．円明院跡周辺地区

宝珠院の北側，円明院跡に東西トレンチを，さらに築地の西側に「く」字形のトレンチを設定した。

**A　第265トレンチ**

円明院跡に東西方向に設定したトレンチで，近世の築地跡と側溝，飛鳥時代の掘立柱穴などを検出した。

SA5120　トレンチの中央部で検出した２条の溝にはさまれた幅約1mの遺構。東側には石列が伴う。東側の溝は幅約1.5mで浅い。西側には幅約1mの素掘り溝SD5118が伴い瓦器椀片が出土。築地状の遺構と考えられる。

SD5111　南北方向の素掘溝で，幅約20cm,深さ約10cm。近世の土師器小皿が出土。

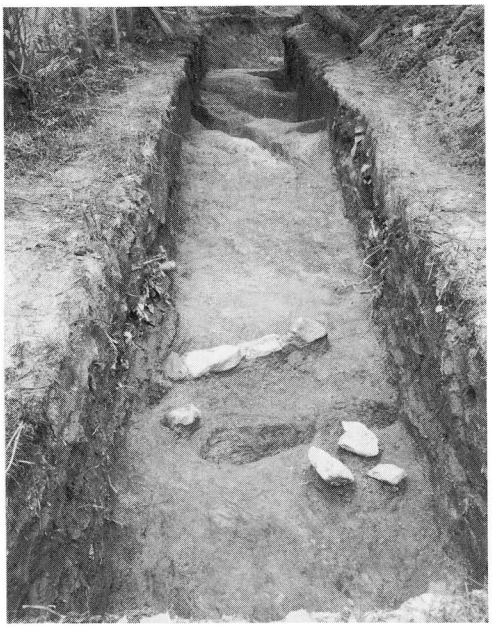
SD5112　南北方向の素掘溝で，幅約30cm,深さ約10cm。土師器小皿が出土した。近世か。

SD5113　幅約60cm，深さ約10cmの斜行する溝である。溝内には砂・灰色粘土が堆積していた。遺物は出土しなかった。埋土の状況から中世と考えられる。

SK5115　トレンチの東端部で検出した土坑で，径約40cm，深さ約25cm，遺物は出土しなかった。

SK5116　トレンチの南壁にかかる不整形な土坑で，幅約25cm,長さ55cm以上。遺物は出土しなかった。

**第20図**　第265トレンチ全景（東から）



**第21図**　第266トレンチ全景（南から）

SK5119　トレンチの西部で検出した土坑で，トレンチの南壁にかかる。東側は削平されているが，SD5112・5113の下におよぶ。

SB5110　トレンチの中央部下層から検出した掘立柱の遺構である。柱掘方は１辺約80cmの方形で鍵形に並ぶ。建物の南妻部分と考えられる。南北の柱間は約1.8m，東西の柱間は約1.5mである。掘方の周辺からは７世紀中頃の須恵器・土師器が出土している。

SK5121　柱穴により切られる１辺約50cmの方形の土坑である。

SK5124　１辺約60cmの方形の土坑である。SB5110とは一致しない。

**B　第266トレンチ**

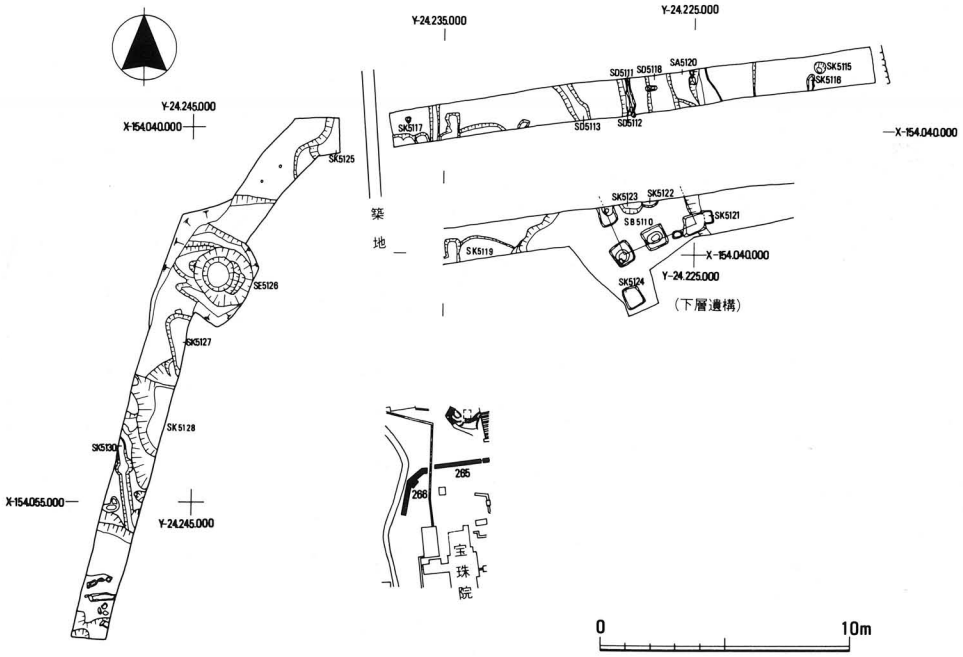
築地の西側に「く」字形に設定したトレンチで西方院跡にあたる。

SK5125　トレンチの北端で検出した土坑で，規模不明，深さ約70cm，７世紀と考えられる須恵器杯片が出土した。

SK5128　トレンチの中央部で検出した土坑である。地山を掘り込だ土坑内には灰茶褐色土が堆積し，７世紀と考えられる須恵器杯片が出土した。

SE5126　井戸の輪郭を明らかにするため一部トレンチを拡張した。井戸は円形素掘りで検出面での直径は約2.1m，検出面下3mでは直径約1mになる。井戸枠は残存しない。この井戸の上面は中世の瓦・土師器を含んだ暗茶褐色土が堆積していた。出土遺物から近世のものと考えられる。

SK5130　トレンチを斜断する溝状の土坑で，幅約40cm，灰色の砂質土で埋まる。途中の広がった部分は史跡標柱の掘方。




**第22図**　第265・266トレンチ遺構図

## 4．中門・南大門中間地区

西院回廊の南西隅から南東に第270トレンチを設定した。第263トレンチはそれにつづき南へのびる新管埋設に伴うものであるが，柱列が検出されたため，東・西に拡幅を行なった。第269トレンチは昨年度の第251トレンチの西側につづくトレンチである。このトレンチでは「伏蔵」が検出されたため，新管ルートを南側に迂回させ，それに伴いトレンチも南側へ折れ曲がった。第268・283トレンチは能石・南大門間の新管埋設に伴う調査であるがこのトレンチから西にのびる第274・275トレンチは遺跡の有無を確認するため設定したもので，新管のルートではない。いずれも顕著な遺構は検出できなかった。第262トレンチは明王院跡に設定したトレンチで，近世の井戸跡および中世の土坑が検出できた。第283トレンでは南大門の室町時代焼失時のものと考えられる焼土層と遺物を検出した。

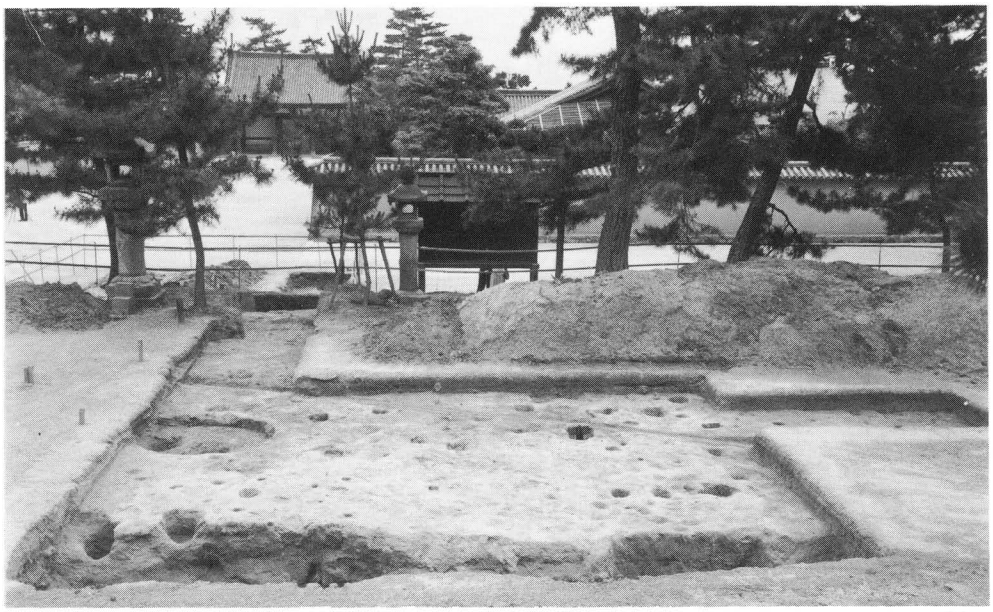
**A　第270トレンチ**

回廊の南西隅から「く」字形に中門前にのびるトレンチで，東半分は旧管掘方とほぼ完全に重なり，遺構が検出できたのは西半分である。

SD5171　トレンチの北端から南東にのびる石組遺構である。石積で護岸した溝の西肩と溝の中に埋めた土管からなる。現在も西院伽藍西面回廊の西側を流れる溝の延長にあり，石積溝を廃し土管にかえたものである。近世のものである。

SD5112　幅約30cm，深さ約10cm，トレンチを斜断する素掘りの溝状遺構である。遺物はない。

SD5173　ほぼ南北方向の素掘り溝状遺構で，幅40cm，深さ約20cm。遺物は出土しなかった。



**第23図**　第263トレンチ全景（北から）

### B　第263トレンチ

中門前と能石間に設定したトレンチで，東西方向の柱列が検出されたため，トレンチを西および東に拡幅した。

SA5091　東西方向の柱列である。柱掘方は一辺約40cmの方形，柱は径約10cmで比較的細い。柱間は約3.9mである。この柱列は回廊の南側柱列から約29.4m南にある。柱穴から近世の碗片が出土。

SA5092　SA5091の南約2.9mで検出した柱列で，掘方は1辺約20cm，柱跡を5箇所検出した。

SA5093　東西方向の柱列で，柱掘方は径約40cmの不整形。柱は径約10cm。SA5091・5092とは平行にならない。

SK5090　トレンチの中央部で検出した土坑で，径約1.3m，深さ約10cm、黄色砂質土で埋る。

SK5102　径約30cmのピット。

SK5103　径約35cmのピット。

SX5101　トレンチの南端で検出した溝状の土坑で幅約40cm，長さ約2.2m，深さ約30cm，文字瓦を含む近世の瓦が出土した。

### C　第268・274・275・276トレンチ

南大門・中門間で，東南隅築地に沿ってトレンチを設定し，3箇所で西側へトレンチをのばした。このトレンチでは地山が比較的浅く，北では表土下約30cm，南では約60cmで起伏しながら南へ傾斜している。遺構は地山面上で検出したが，多くは近世から近代のもので，東南隅築地に沿って長く延びる2条の柱列や第274トレンチの西部で検出できた小土坑は、遺物から近代のものと考えられる。

SK5148　大形の土坑で幅約4m，深さ約30cm。飛鳥時代から奈良時代の瓦・土器が出土。

SK5150　トレンチの南壁にかかる。径約70cmの瓦溜で，近世のものと考えられる。

SK5158　トレンチ西の近世暗渠で切られている径約2m，深さ約25cmの土坑で，羽釜片等中世の遺物が出土した。

SK5146　径約50cm，深さ約5cmの土坑である。時期は不明。

### D　第283トレンチ

第268トレンチの南への延長線上に設定したトレンチで，南大門の北辺に近接する。トレンチの中央に東西に旧管が埋設されている。現表土下約1mで地山となるが，遺構のない部分では地山面上に20～40cmの厚さの瓦器片を含む整地層があり，その上に焼土層がある。焼土層からは青磁片・軒丸瓦(平安時代)・軒平瓦(奈良時代)などが出土した。

SK5267　焼土面から掘られた径約50cmの土坑で底に瓦を敷く。

SK5266　トレンチの南東隅にかかる土坑で，焼土面から掘られている。

SD5269　斜行する幅約50cm，深さ約20cmの溝状の遺構で，古墳時代の土器が出土。

SK5270　トレンチの西壁にかかる土坑で，幅1m以上。

SK5268　トレンチの南端にかかる土坑状の遺構で，深さ約30cm，飛鳥時代の土師器・須恵器が出土した。

**E　第262トレンチ**

西南隅築地の内側に南北方向のトレンチを設定した。江戸時代初期の「伽藍境内大絵図」によれば現在の宝光院は威徳坊で，築地を境いにして北に明王院が位置する。寛政9年(1797)の「法隆寺惣境内之図」では宝光院は現位置にあり，明王院の場所には観学院があって，その北には明王院が位置する。宝光院と勧学院は築地を境いとするが，勧学院と明王院の間には築地が築かれていない。勧学院は18世紀後半に焼失したと伝えられる。この調査において検出した遺構は中世から近世の土坑・井戸などである。

SE5075　トレンチの中央部で，トレンチの西壁にかかる井戸を検出した。上面での掘方径は約3m，掘方から約2.2m下に鍵型に曲がる石列がありその上に木材が置かれていた。井戸埋土から巴文軒丸瓦等が出土した。近世のものと考えられる。この井戸の北側に井戸掘方より古い掘方が見られた。

SK5089　トレンチの南部の下層で検出した土坑状遺構で，東・西はそれぞれトレンチにかかる。深さ約20cmで，中世と考えられる土器が多量に出土した。

その他　トレンチの北端と南部に石列が見られた。いずれも近世のものであるが，土塀に関連するものとも考えられる。トレンチの中央部では不整形な土坑(SK5077・5076・5078・5086・5087・5082・5083・5088)が地山面で検出された。またこの上層では石列が3箇所に認められた。

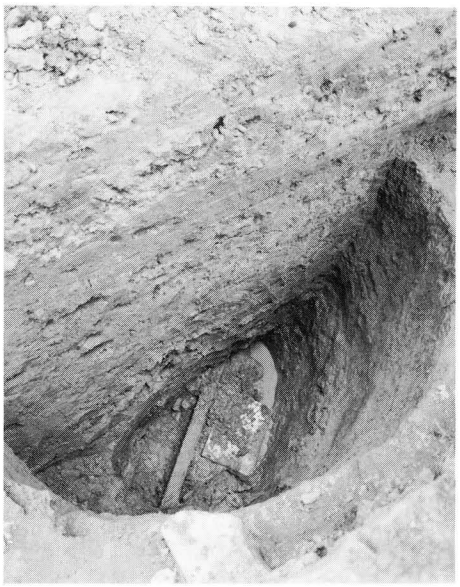
**F　第269トレンチ(東半部)**

能石階段・大湯屋間に設定したトレンチで，途中，石組遺構SX5170が検出されたため南へ折れまがる。おおむね表土下の比較的浅い位置で地山が検出されこの地山面上に中～近世の土坑・溝等の遺構が検出された。

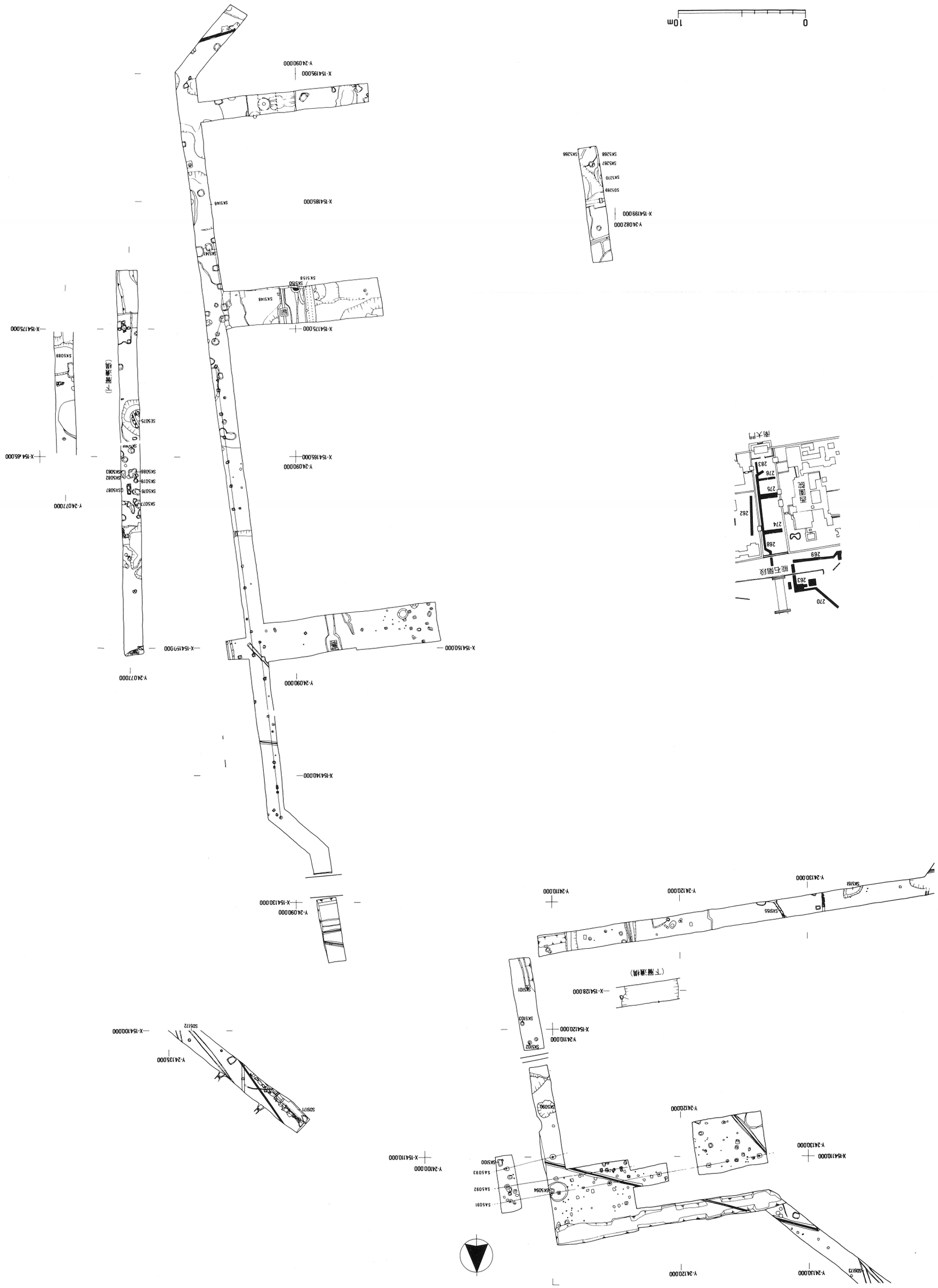
SX5151　トレンチの南壁にかかる土坑で幅約1.5m，焼土混りの黒褐色土で埋っている。

SX5155　トレンチの中央部で検出した土管を列べた遺構で近世のものと考えられる。

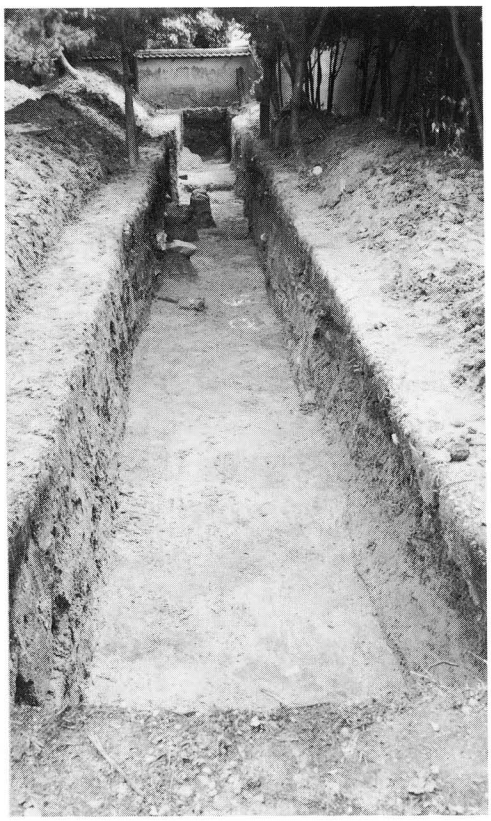
その他　トレンチの西端から2mの位置で検出した南北溝は幅約1mで深さ20cm。同西端から7mの位置で検出した南北溝は水道管の掘方と重なっていて幅は明確ではない。時期不明。



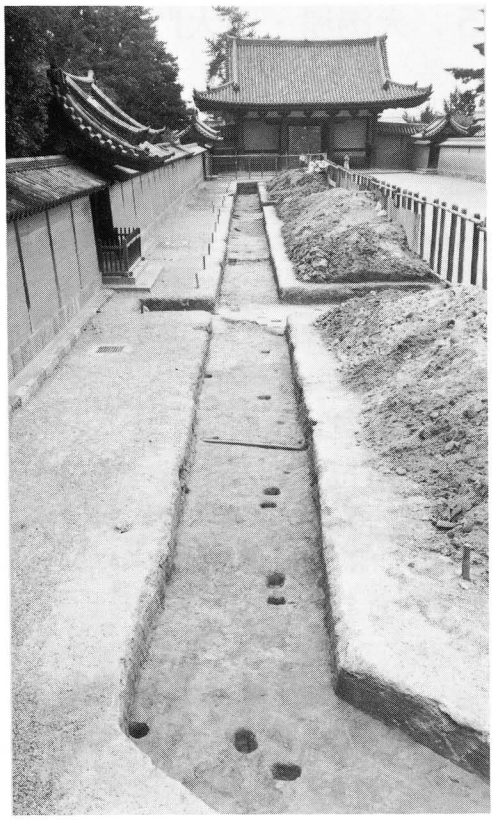
**第24図**　SE5075(東から)




第25図　中門・南大門地区遺構図

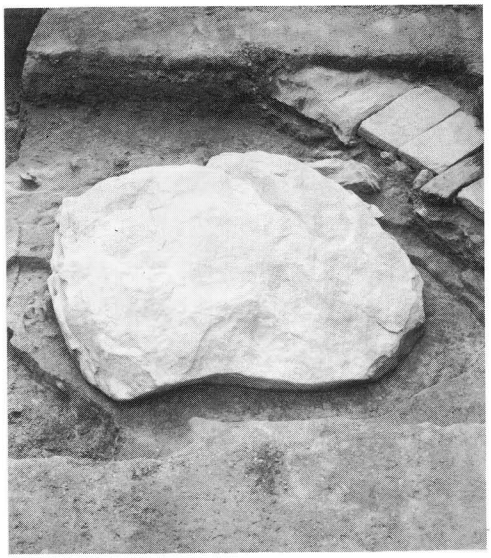


**第26図**　第262トレンチ全景(北から)



**第27図**　第268トレンチ全景(北から)

**第28図**　SX5157(南から)



**第29図**　SX5170

# 5．大湯屋・西大門間および中院西辺地区

## A　第269トレンチ(西半部)

能石階段・大湯屋間に設定した第269トレンチの西側部分である。このトレンチでは石組遺構を検出した他，主に中～近世の土坑・溝等を検出した。

SX5170　大湯屋の門の北側で検出した石組遺構である。南北幅約2.4m，東西幅2mの偏平な石の側面に一部加工を施す。北・東辺で据方を検出した。石の上面は現地表下約10cmの深さにあり，石組の溝(SD5157)の東岸の石列の北延長と考えられる石列が石の西辺下にある。SX5170は『古今一陽集』に，三伏蔵の一つが浴室の前にあると記している中に見える大石が，これに相当するものと思われる。

SD5133　東西方向の素掘溝の北岸を検出した。SD5154に切られている。

SD5154　南北方向の素掘の溝で幅約1.5m，深さ約50cm。砂が互層に推積している。

SD5174　南北方向の素掘溝で幅約1.5m，深さ約50cm，地山を掘りくぼめた遺構内からは須恵器片が出土した。

SD5160　SD5157と一連の遺構で北から南へ流れる流路の東岸と考えられる。遺構内には砂が堆積し，近世と考えられる土師器小皿が出土した。

SD5157　両岸を大型の石で組み上げた溝で，幅1m，深さ約80cm。西岸の延長部が石組遺構SX5170の石に見られるが，その北部では後世の暗渠により破壊されている。埋土から瓦器片等，中世の遺物が出土した。この溝の上層には近世の溝SD5161がある。

SX5168　表土下約30cmで検出した南北方向に瓦・石を敷き列べた遺構で近世のもの。

SX5169　表土下約50cmで検出した。瓦質の土管を並べたもので，5個分検出している。排水のための施設で近世のものと考えられる。

SD5152　表土下約70cmで検出した鍵形の溝状遺構で深さ約30cm，白磁片等が出土した。

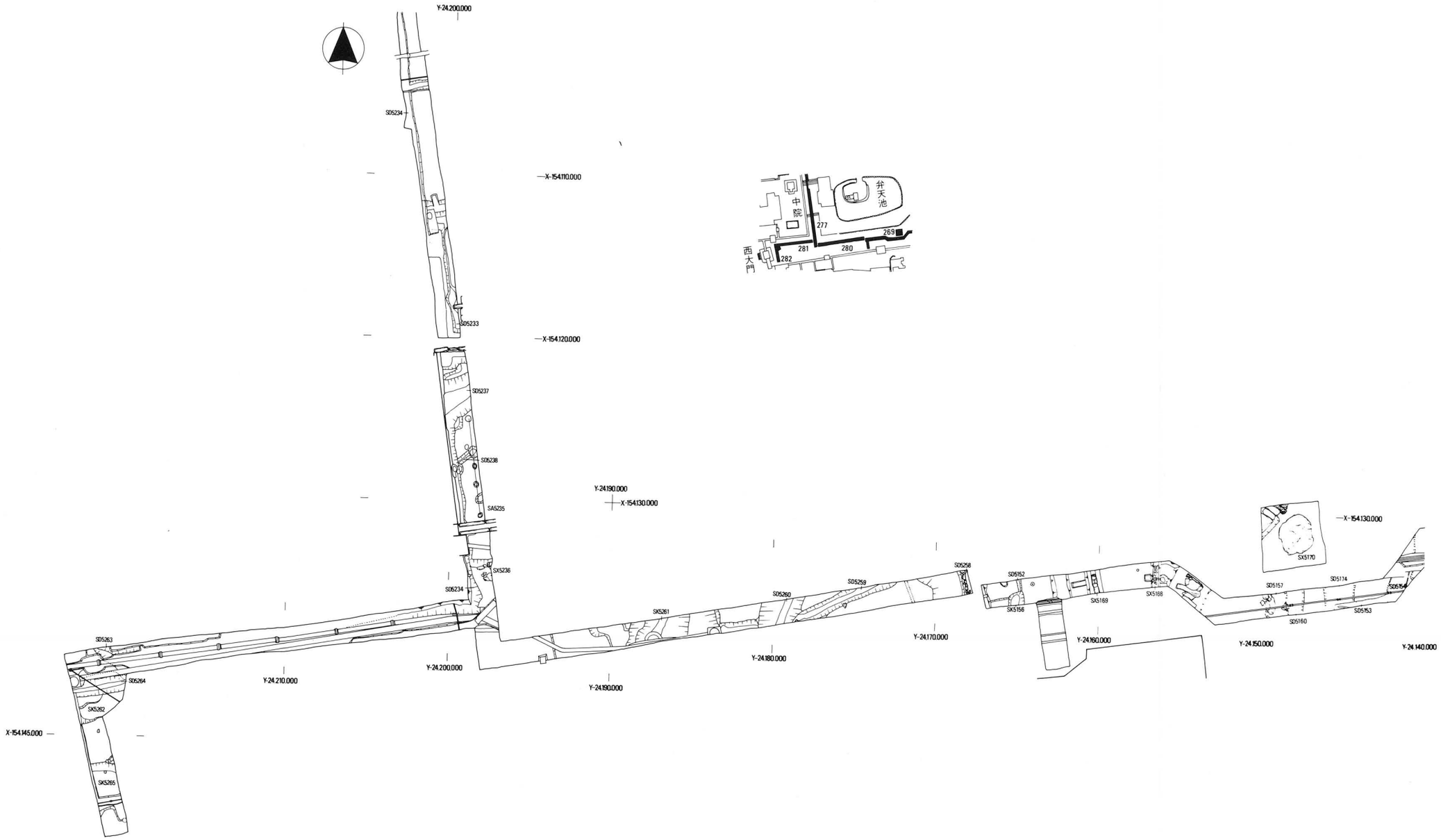
SK5156　トレンチの南壁にかかって検出した土坑で，現地表下約70cmで検出した。幅約1m，深さ約60cm。瓦質土器片などの遺物が出土した。

その他　大湯屋の門の北側あたりで地山が最も下がり（現地表下約1.8m)，それぞれ東西にゆるやかに上がることが明らかとなった。これは西院回廊と西室間で検出した谷状地形の南部にあたると考えられる。しかしここでは西院伽藍創建時と考えられるような整地層は認められず，かなり後まで谷状の地形が残ったらしい。

## B　第280トレンチ

中院築地南東隅部から東へ設定したトレンチで第269トレンチにつづく。土坑・溝状の遺構等を検出した。

SK5261　幅約3.5mの土坑状の遺構であるが北・南側はトレンチにかかる。深さ約80cm。黒褐土で埋められ，瓦器片・青磁片が出土した。中世のものと考えられる。




**第30図**　大湯屋・西大門間および中院西辺地区遺構図

SD5260　幅約2.5m，深さ50cmの素掘の溝状遺構である。古代のものか。

SD5258　石積で護岸した溝のうち西岸を検出し，一部東岸を確認した。幅は49cm，深さ約30cm。近世の遺構である。

**C　第277トレンチ**

中院の築地の東側に設定したトレンチで第273トレンチの南延長にあたる。このトレンチでは中世～近世の溝跡，近代の柱列などの遺構が検出できた。

SD5234　トレンチの西辺沿に南北方向に検出した素掘の溝状の遺構で中院の築地に沿って西へまがり第281トレンチのSP5263につづくものと考えられる。北端は第273トレンチの石段状の遺構（SX5225）の西辺につづく。東岸を検出しただけで幅は不明，南へ下がるに従って深くなる。土師器片・瓦器片などが出土した。中世のものと考えられる。皿

SD5233　トレンチの中程で検出した素掘りの溝状遺構で，「乙」字形に折れ曲がる幅約1.7m。平安時代の軒平瓦(142-B型式)が出土。

SD5237　東西方向の素掘りの溝状遺構で幅2m，深さ約80cm。

SX5236　東西方向の石列である。瓦器片がみられ中世以降のものである。整然とは並ばず遺構の性格は不明。

**E　第281トレンチ**

中院の南側の築地の南辺に設定したトレンチで溝状遺構・土坑などを検出した。

SD5263　第277トレンチのSD5234が西に折れ曲がりSD5263になる。ちょうど旧管の下が溝の南岸になるが北岸は検出できず幅は不明。深さ40cm以上である。トレンチ西端部で北へ折れ曲がるものと考えられる。埋土から瓦器片が出土し中世のものと考えられる。

SD5264　トレンチの西端部で検出した東西方向の溝で幅約1m，深さ約30cm。SK5264の下から検出された。

SK5264　南北幅約3m，深さ約40cmの土坑で焼土と瓦で埋められていた。所謂瓦溜で瓦は近世のものである。貞享元年(1684)11月5日の西大門焼失時のものと考えられる。

**E 第282トレンチ**

西大門の東辺に設定したトレンチであるが顕著な遺構は検出できなかった。地山は表土下35cmで検出できた。

SK5265　焼土や瓦の入った土坑状の遺構で規模不明。北から南へ下がり，深さは約20cmである。近世のものと考えられる。

註

1）従来の発掘発調成果については，『法隆寺発掘調査概報Ⅰ』（昭和57年），『同Ⅱ』（昭和58年法隆寺発掘調査概報編集小委員会）を参照されたい。

2）軒瓦の型式番号は『南都七大寺出土軒瓦型式一覧（1）法隆寺』奈文研(昭和58年)による。